



平成 19 年 10 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 19 年 9 月 18 日

上場会社名 株式会社エイチ・アイ・エス 上場取引所 東証一部
 コード番号 9603 URL <http://www.his-j.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 芳夫 TEL (03) 5908 - 2070
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 (氏名) 行方 一正

(百万円未満切捨て)

1. 平成 19 年 10 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 18 年 11 月 1 日 ~ 平成 19 年 7 月 31 日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19 年 10 月期第 3 四半期	251,563	11.3	2,448	8.1	3,183	5.5	1,987	1.8
18 年 10 月期第 3 四半期	226,053	14.2	2,663	63.0	3,370	45.7	1,952	19.0
18 年 10 月期	328,980	-	7,235	-	8,082	-	4,867	-

	1 株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19 年 10 月期第 3 四半期	59	54	-	-
18 年 10 月期第 3 四半期	58	47	-	-
18 年 10 月期	145	79	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1 株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
19 年 10 月期第 3 四半期	115,777	47,100	40.3	1,398	58			
18 年 10 月期第 3 四半期	103,717	43,355	41.0	1,274	31			
18 年 10 月期	92,520	44,149	47.3	1,311	29			

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19 年 10 月期第 3 四半期	15,206	1,559	701	49,940
18 年 10 月期第 3 四半期	16,505	4,151	728	44,568
18 年 10 月期	9,610	5,370	732	36,515

2. 平成 19 年 10 月期の連結業績予想（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日） 【参考】

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	364,000	10.6	7,100	1.9	8,200	1.4	4,900	0.7	146	78

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
 [新規 - 社（社名 - ） 除外 - 社（社名 - ）]
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無： 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無： 有
- （注）詳細は、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

（参考）個別業績の概要

1. 平成 19 年 10 月期第 3 四半期の個別業績（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 7 月 31 日）

(1) 個別経営成績（%表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19 年 10 月期第 3 四半期	216,834	11.3	914	38.5	1,118	42.8	557	48.1
18 年 10 月期第 3 四半期	194,817	15.5	1,486	21.9	1,955	23.9	1,075	-
18 年 10 月期	288,880	-	5,734	-	6,238	-	3,663	-

	1株当たり四半期 （当期）純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益	
	円	銭	円	銭
19 年 10 月期第 3 四半期	16	71	-	-
18 年 10 月期第 3 四半期	32	22	-	-
18 年 10 月期	109	73	-	-

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
19 年 10 月期第 3 四半期	104,773	41,780	39.9	1,251	57			
18 年 10 月期第 3 四半期	96,960	40,801	42.1	1,222	15			
18 年 10 月期	84,053	41,541	49.4	1,244	33			

2. 平成 19 年 10 月期の個別業績予想（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	318,000	10.1	5,100	11.1	5,700	8.6	3,200	12.6	95	86

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報あるいは想定できる市場動向などを前提としており、不確実性が含まれております。実際の業績は、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、4 ページをご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期における日本経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に設備投資や個人消費は堅調に推移いたしました。一方、原油価格の高騰や為替変動については依然として不安定な状態が続いております。

旅行業界を取り巻く環境としては、ゴールデンウィーク（以下、GW）の日並びが昨年と比べあまり良くなかったことや昨年6月開催のFIFAドイツワールドカップの反動に加え、為替相場の円安基調と燃油特別付加運賃の高止まりが消費者心理に海外旅行の割高感を与える結果となり、国際観光振興機構（JNTO）による平成19年5月から平成19年7月の3ヶ月間の日本人出国者数（暫定・推計値）は、前年同期比3.0%減（12万9千人減）の412万9千人となりました。

このような状況のもと、当社グループの旅行事業におきましては、旅行需要全体の伸び悩み、特に若年層を中心とした出発間際の海外レジャー需要の低迷傾向に対応すべく、夏期や出発間際の旅行需要を意識した各種営業施策を積極的に展開し、集客の強化を図ってまいりました。

このような積極的な営業展開の結果、旅行事業の売上高2,499億74百万円（前年同期比111.2%）と増収を達成いたしました。営業利益41億23百万円（前年同期比97.3%）と減益になりました。

ホテル事業におきましては、オーストラリアの堅調な経済状況が続いており、客室の高稼働率を継続して維持することができました。また、インターネットや旅行会社を通じた予約も増加した結果、ホテル事業の売上高16億18百万円（前年同期比133.0%）、営業利益1億93百万円（前年同期比117.3%）と順調に推移しております。

以上の結果、当第3四半期の連結業績は売上高2,515億63百万円（前年同期比111.3%）、営業利益24億48百万円（前年同期比91.9%）、経常利益31億83百万円（前年同期比94.5%）、四半期純利益19億87百万円（前年同期比101.8%）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて232億56百万円増加し、1,157億77百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加（前連結会計年度末比131億49百万円増）、旅行前払金の増加（前連結会計年度末比80億3百万円増）であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて203億5百万円増加し、686億76百万円となりました。主な要因は、旅行前受金の増加（前連結会計年度末比176億61百万円増）、営業未払金及び買掛金の増加（前連結会計年度末比40億98百万円増）及び未払法人税等の減少（前連結会計年度末比19億56百万円減）であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて29億51百万円増加し、471億円となりました。主な要因は、四半期純利益の計上（19億87百万円）、為替換算調整勘定の増加（前連結会計年度末比12億36百万円増）であります。

(2) 連結キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末に比べて134億25百万円増加し、499億40百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況についての詳細は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、152億6百万円の増加となりました。主な増加要因としては、税金等調整前四半期純利益31億52百万円の計上、夏のピークシーズンを前にしての取扱高拡大による旅行前受金の大幅な増加(176億21百万円)が挙げられます。一方、旅行前払金の増加(79億67百万円)が主な減少要因となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、15億59百万円の減少となりました。これは主に、有価証券の償還(24億円)、投資有価証券の取得(20億63百万円)及び関係会社である九州産業交通ホールディングス株式会社に対する貸付(20億円)によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、主に当社における配当金の支払(6億67百万円)により、7億1百万円の減少となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成19年10月期(平成18年11月1日～平成19年10月31日)の通期の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたします。

連結

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	374,000	8,250	9,200	5,400
今回修正予想(B)	364,000	7,100	8,200	4,900
増減額(B-A)	10,000	1,150	1,000	500
増減率	2.7%	13.9%	10.9%	9.3%
ご参考 前期実績	328,980	7,235	8,082	4,867

平成19年5月～7月におきまして、積極的な営業展開を実施したものの、日本における海外旅行需要が膠着化したことなどから、取扱人数の大幅な伸長は達成できませんでした。この状況は今後も続くことと予測されることから、通期の連結業績予想を修正いたします。

【参考】

また、平成19年10月期(平成18年11月1日～平成19年10月31日)の通期の個別業績予想につきましても同様の理由により、下記のとおり修正いたします。

個別

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	330,000	6,400	6,900	3,900
今回修正予想(B)	318,000	5,100	5,700	3,200
増減額(B-A)	12,000	1,300	1,200	700
増減率	3.6%	20.3%	17.4%	17.9%
ご参考 前期実績	288,880	5,734	6,238	3,663

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上基準については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

当連結会計年度より、平成 19 年度の税制改正に伴い平成 19 年 4 月 1 日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に規定する減価償却の方法によっております。

なお、この変更に伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。